

射水市立小杉小学校PTA

主題 地域と歩んだ150年

副題 ～すぎっ子ファースト！！PTAは子ども応援団～

射水市立小杉小学校PTA

会長 須藤 哲也

1 はじめに

(1)地域の紹介

射水市は2005年に射水郡小杉町、大島町、大門町、下村、新湊市が合併し発足した。富山湾に面した港町であり、県内では最も人口密度の高い地域となっている。



(2)学校紹介

小杉小学校は1873年に「和親小学校」として創立され、校名の変更や大江小学校との合併などを経て、現在の小杉小学校となった。

現在の児童数は588名。教職員数は52名。

2024年には、優れた「早寝早起き朝ごはん」運動への学校と家庭の連携を高く評価され、文部科学大臣賞を受賞した。ここでは、「あははカメ」をキャッチフレーズとして活動に取り組んだ。



「あははカメ」

⓪さごはんを食べる。

⓫やく寝て、

⓫やく起きる。

⓪らだを動かす。

⓪ディアの時間を守る。

また、地元の特産品であるベニズワイガニが一杯丸ごと給食で提供されるという射水市の事業も、射水市の小学校ならではの特徴といえる。



2023年には創校150周年を迎え、実行委員会による「プロジェクト150」と題した記念事業を1年間を通して次々に開催した。

富山県出身の歌手、CHICOさんをお招きしての講演、ライブ鑑賞や、富山県出身の水球元日本代表選手をゲストに迎えてのプール開き、手話教室や富山グラウジーズの選手によるバスケットボールの指導等、この他にもたくさんのイベントが開催された。



(3)地域とのつながり

何世代にもわたって小杉小学校に通う家庭も多く、卒業生の多くが地域に根付いている。150年という時間は、学校が教育を行ってきただけでなく、地域の人々の記憶や文化をつないできた。

祭礼など様々な行事を通じて、幅広い年齢層での交流もあることから、「プロジェクト 150」の記念式典では、小杉小学校の児童だけではなく、卒業生や地域の方々もお招きしてスカイランタンフェスタを執り行った。



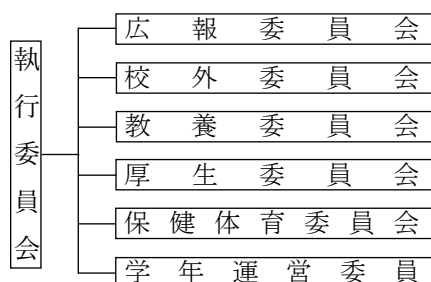
また、小杉小学校は三ヶ地区、戸破地区、大江地区の3つの地区から成り立っている。

150周年事業として「プロジェクト 150」の実行委員と各地域振興会との協議を経て、例年、地区ごとに実施されていた住民運動会などの計画を変更し、校区内全ての地区による合同のフォトウォークラリーを実施した。世代に関係なく、たくさんの方々に参加いただき、とても充実したイベントとなった。



2 PTA活動について

(1)PTA組織体制について



広報委員会…年3回、広報紙の発行。各種イベントでの写真撮影。

校外委員会…こども 110 番の家と通学路危険個所の看板設置、管理。交通立哨。

教養委員会…教養イベント、講演会等の実施。

厚生委員会…年3回の資源回収の実施。

保健体育委員会…救急救命講習会の実施、夏休みのプール監視。

学年運営委員…親子活動の企画・実施

(2)PTA活動の紹介

ア「夜の学校を探検してみよう」2024 年8月

能登半島地震のあと、子どもたちの笑顔を取り戻そう！笑顔を守り続けよう！というコンセプトで、富山県 PTA 連合会による「子どもの笑顔支援事業」の採択を受け、実施することができた。300 名を超える児童と保護者が集まり、笑顔が溢れる企画となった。

(教養委員会)



イ「逃走中」2024 年 11 月

1年生から3年生対象。保護者への「ハンター役」協力依頼をきっかけに、小杉中学校の生徒からもハンター役を希望する声があり、本イベ

ントは中学生の協力も得て実施した。

(学年運営委員)



ウ「森の寺子屋 ～門松・竹箸づくり～」

2024 年 12 月

4 年生から 6 年生を対象とした、富山フォレスト協会の皆様による森林教室。(学年運営委員)



エ「お小遣いから学ぶお金の話」 2025 年 9 月

J-FLEC(金融経済教育推進機構)へ委託し、3年生から 5 年生が学習した。(教養委員会)



(3)保護者と地域が支える活動紹介

ここでは PTA 役員の活動ではなく、実行委員会(立候補)や、地域が主体のイベントを紹介する。

ア「住民運動会への参加」 2024 年 10 月

現在、小杉小学校では「運動会」が「すぎっ子スポーツフェスタ」という名称に変わり、競技数を減らし、時間を短縮して毎年5月に開催されている。

子どもたちには思いっきり運動会を楽しんでほしい！！という想いから、校区内で住民運動会を企画している大江地区体育協会と協議し、全校児童を対象に住民運動会への参加を承認していただいた。これまで経験したことのない障害物レースなどに出場し、地域の方からの声援を受けて楽しそうに走る子どもたちの姿が印象的だった。なお、運動会の企画・運営はすべて体育協会が担っており、PTA は関与していない。

(大江地区体育協会)



イ「すぎっ子ピカデリー」2024 年 11 月

すぎっ子ピカデリーとは、体育館に大型スクリーンを設置し、映画を上映する“映画館体験”イベントである。ポップコーンやドーナツ、好きなジュースを味わいながら親子や友達と一緒に映画を楽しむことができる。

全校児童の投票により上映する映画を決定した。昼休憩には、実行委員による焼きそばやホットドッグ、唐揚げなどの手作りメニューも販売し、子どもから大人まで 550 名以上

の皆さんに楽しんでいただいた。

(実行委員会)



ウ「小杉防災スポーツフェスタ」2025 年 9 月

小学校と地域のコラボイベントとして防災スポーツフェスタを開催した。子どもから大人まで様々な世代の方と協力して各種目競技に参加し、体を動かす楽しさを感じながら防災に関する知識や技を学ぶことができた。そして何よりも災害時に必要な近隣住民との人間関係づくりに大切な、コミュニケーションをたくさんとることができた。

バケツリレーや担架リレーの他、消防本部によるハシゴ車の乗車体験や、赤十字奉仕団の皆さんによるカレーライスの炊き出しを行っていただいた。

PTA 主催イベントではあるが、小杉小学校区全ての地域振興会、体育協会、消防本部、消防分団、赤十字奉仕団、社会福祉協議会の皆さんのご協力と後援のもと、地域全体のイベントとして盛大に開催することができた。

(実行委員会)



3 コミュニティ・スクールについて

コミュニティ・スクールが本格的に導入されて、2年目をむかえた。学校運営協議会には、先生方や、保護者、PTA 役員、そして地域の方々やコーディネーターが参加し、学校と地域が一つになって教育を支援する活動を行っている。



(1)コミュニティ・スクールの活動

(ア)栽培活動

(イ)学習の補助

(ウ)学習の講師

(エ)家庭科の補助

(オ)その他

2025 年 9 月

「すぎっ子こども 110 番の家仲よし大作戦」

校区内には「こども 110 番の家」として、子どもたちが危険を感じた時に、一時的に

保護して下さる民家や店舗が多数ある。しかし、危険が起きた時に見ず知らずの人の家に飛び込むのは勇気のいる行動ではないだろうか。そこで、コミュニティ・スクールでは、「こども 110 番の家」の方々にご協力をいただき、通学の際、自宅の前に立っていただき、子どもたちへの温かい声掛け運動を行った。今後は年間数回、集団下校の機会に開催する予定である。



4 まとめ

小杉小学校PTAが行っているイベントを中心に紹介した。私たち PTA は、子どもたちに「楽しい！」をプレゼントするプレゼンターである。まずは、自分たち自身が楽しんで PTA 活動を行うことが大前提だと思っている。昨年度、楽しそうに活動する PTA 役員を見て、今年度の役員改選は約半数が立候補で決まるという嬉しい結果になった。役員会も笑顔に満ちたとても明るい雰囲気で開催されている。

その一方で、行事の運営にあたっては「PTA 役員の負担を分散させる仕組みづくり」も進めている。具体的には、企画を細かく分担したり、イベントごとに役員以外の保護者にも加わっていただき実行委員会を設立したりすることで、協力体制を広げている。一人一人の小さな協力の積み重ねで、大きなイベントの開催が可能となり、PTA 活動全体を支えている。

5 今後の展望

理想としては、学校行事や PTA イベントを先生方や保護者だけで運営するのではなく、地域の皆さんにもご参加いただき、「コミュニティ・スクール」としての活動へと少しずつ移行していくことである。これにより、保護者や先生方の負担軽減にもつながると考えている。紹介したように、小杉小学校 PTA は日頃から地域の皆様と深い繋がりがあり、地域全体が小学校を支えて下さっている。そしてまた、小学校からも児童が地域のイベントに積極的に参加しているため多世代に渡って地元の方々の顔が見えている状態であり、地域とのコミュニケーションがとれている。PTA 役員は毎年改選があり、その年ごとに熱意や取り組み方に差が生じがちである。一方で、コミュニティ・スクールのメンバーは、その地域に住み、地域を愛し、子どもたちを支えて下さる方々で構成されている。多くの方から少しずつご協力をいただくことで、学校と地域が力を合わせ、これからも末永く子どもたちを育んでいけると確信している。